29 年 第 4 回「パスナビ投票」集計結果レポート

# 「夏休み、オープンキャンパスに行った？」

## 志望する気持ちが強くなった参加者は約 7 割！

旺文社教育情報センター 29 年 10 月 6 日

パスナビでは 29 年度第 4 回『パスナビ投票―夏休み、オープンキャンパスに行った？』を実施した。

**実施期間**：平成 29 年 9 月 1 日（金）～10 月 1 日（日）

**回答総数**：460（男女比…男子：136《29.6%》/女子：324《70.4%》）

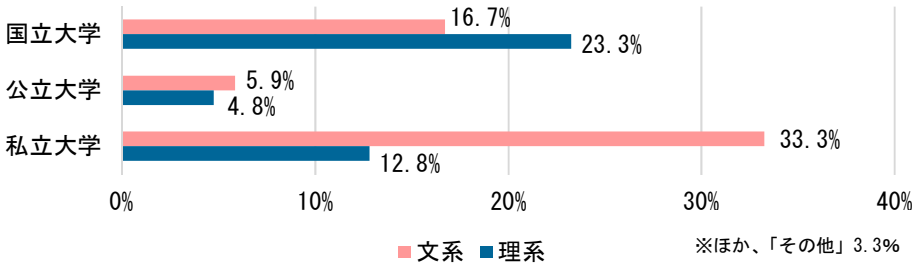
**学年別占有率**

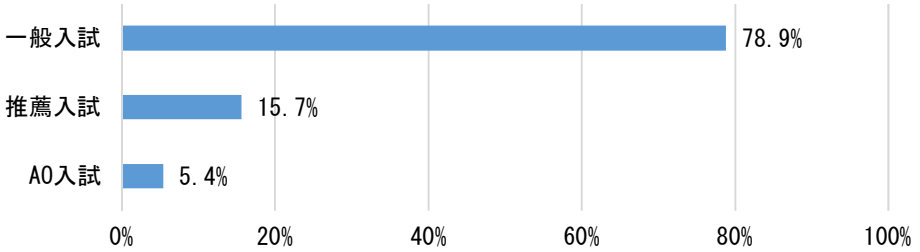
高校 1 年生：14.1%　高校 2 年生：24.3%　高校 3 年生：56.1%　浪人生：5.4%

※なお、質問 4 以降は、質問 3 でオープンキャンパスに行ったと回答した者のみを対象とした。

**質問 1:【第 1 志望の大学は、次のどれですか？】**　回答数：460

**質問 2:【第 1 志望の大学には、どの入試で合格を目指していますか。】**　回答数：460



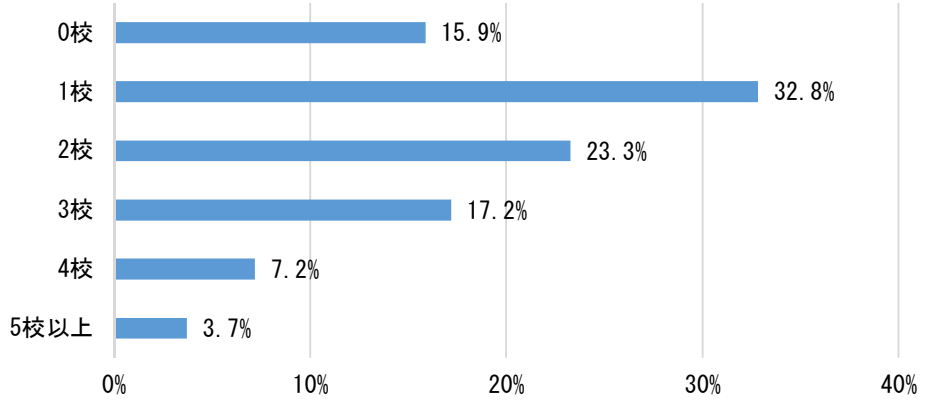

上のグラフは、次項以降のオープンキャンパスについての質問に回答している高校生・受験生の属性を示している。文系：理系はおよそ 6：4。一般入試での志望者が圧倒的に多い。



(C)2017 旺文社 教育情報センター

**質問 3:【夏休み中に参加したオープンキャンパスの校数を教えてください。（参加していない場合は「0 校」を選択。）】**

回答数：460

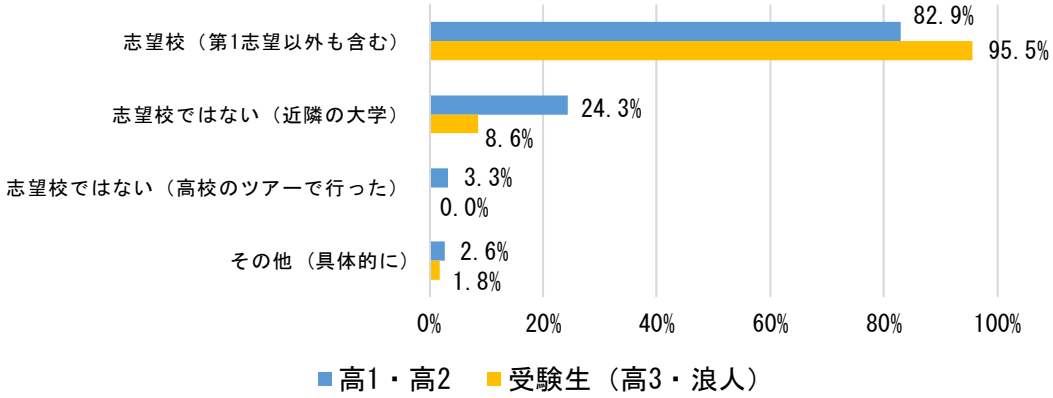



この夏休みにオープンキャンパスに行った人は全体の「84.1%」にのぼる。ただしアンケートの性質上、そもそもオープンキャンパスに参加した人が中心に回答していると予想されるため、実際はこれよりも少ないと思われる。

重要なのは参加率よりも参加校数だ。参加校数は「1 校」が最も多く、割合にして 3 割を超えた。参加校数が「4 校」「5 校以上」と回答した人はわずか 1 割程度だったため、参加者の多くは参加校数が 3 校以下だったことが分かる。

**質問 4:【オープンキャンパスに参加した大学は、以下のどれに当てはまりますか。（複数選択可）】**

回答数：368




参加した人のうち、志望校（第 1 志望校以外も含む。以下同）のオープンキャンパスに参加したのは全体の「90.4%」だった。学年別で比較しても、全学年で志望校への参加が圧倒的に多く、参加する時点で志望校が絞られていることが分かる。さらに、質問 3 の参加校数で「1 校」が最も多いことを併せてみると、参加している大学は「第 1 志望」の可能性が高い。「複数校を見て第 1 志望を選ぶ」よりも「第 1 志望を直接見て確認する」ことの方が多いようだ。大学からすれば、オープンキャンパス参加者は貴重な志願者候補となる。

なお、受験生と比較すると高 1・高 2 は志望校以外の大学のオープンキャンパスに参加した割合が高く、特に、志望校ではない近隣の大学への参加が「24.3%」だった。高 1・高 2

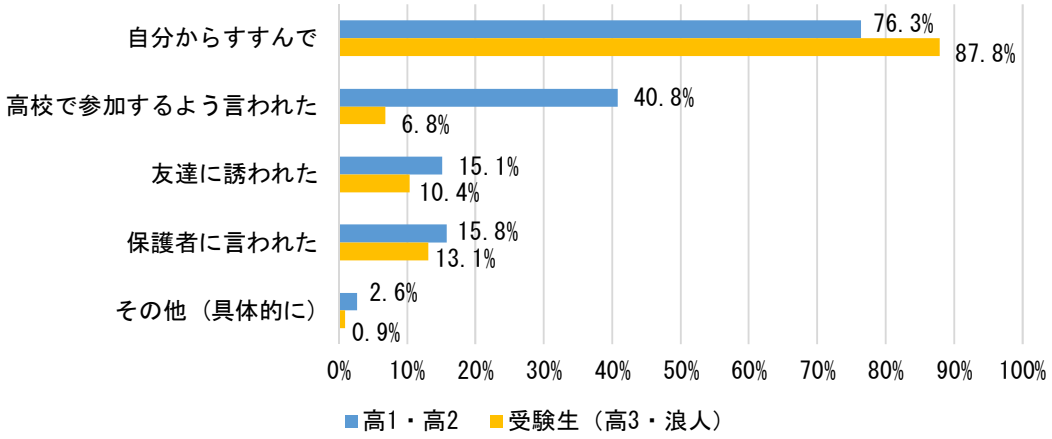


(C)2017 旺文社 教育情報センター

では、志望校であるかどうかに関わらず「大学とはどのようなところか」を見学するために参加するケースも多いようだ。

### 質問 5:【参加した理由を教えてください。（複数選択可）】

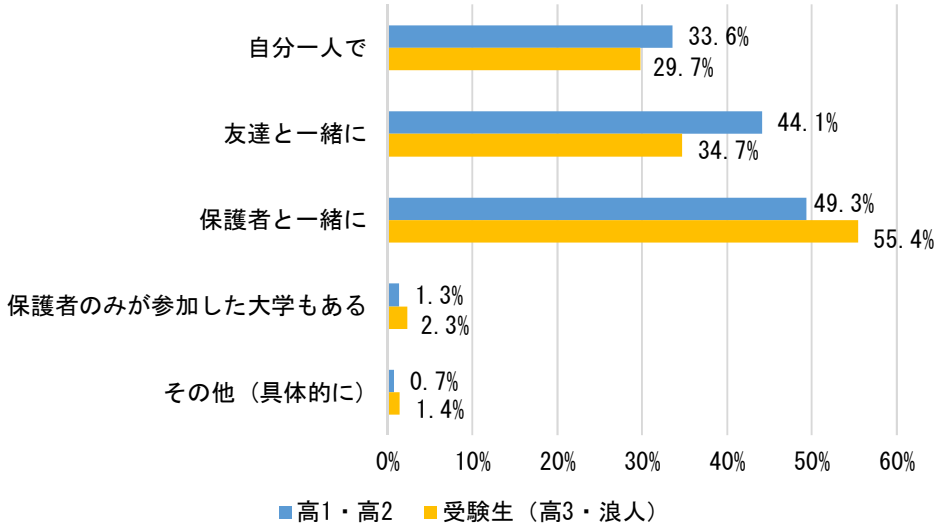
回答数：367




「自分からすすんで」が最も多く、全体の「83.2%」を占めた。学年別で比較すると、受験生よりも高 1・高 2 の方が他動的な理由で参加した場合が多かった。特に高 1・高 2 の 4 割が「高校で参加するように言われた」と回答しており、高校の進路指導の影響が大きく結果に表れている。

### 質問 6:【どなたと一緒に参加しましたか。（複数選択可）】

回答数：368




「保護者と一緒に」が最も多く、全体の「52.9%」を占めた。志望校を選ぶうえで保護者の影響は大きく、受験生自ら保護者に対してアドバイスを求めるケースも多い。受験が近づくにつれてその傾向は強くなるようで、受験生は高 1・高 2 に比べて「保護者と一緒に」「保護者のみが参加した大学もある」の割合が高かった。



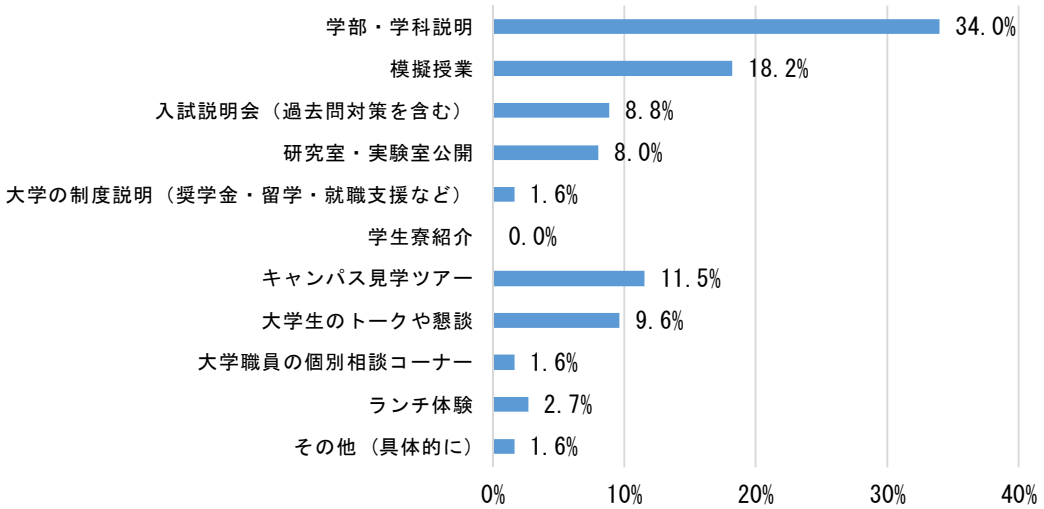
(C)2017 旺文社 教育情報センター

自分から保護者を誘ったのか、保護者から「参加したい」と言われたのか。質問５で「自分からすすんで」が圧倒的に多いこととあわせて考えると、前者の方が多いようだ。受験生が志望校を絞り込んでオープンキャンパスに参加し、保護者を連れて行って納得してもらうのがトレンドだろう。

保護者にとっても、「大学受験」という大きな節目において、オープンキャンパス参加を通して最も直接的に大学に関わることができる。大学側もオープンキャンパスでの保護者対策は大事にしたいところだ。

## 質問 7:【最も「有意義」だったプログラムを教えてください。】

回答数：365



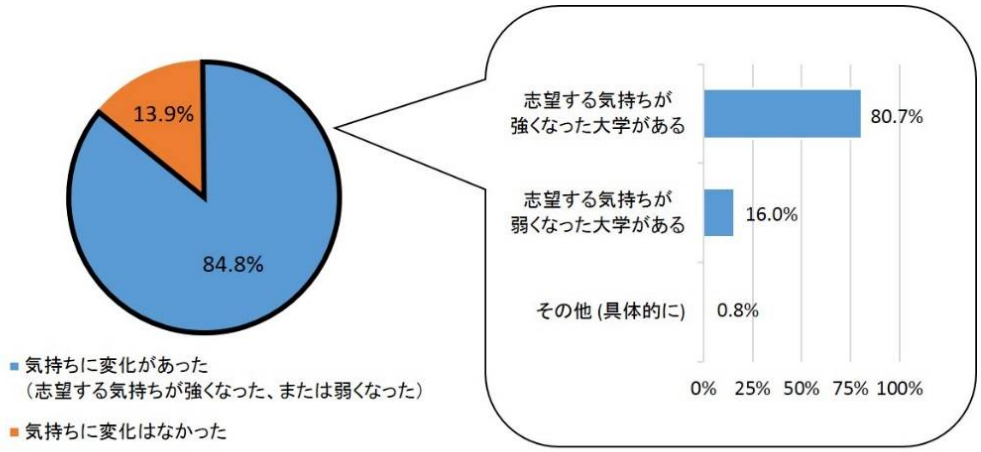

「学部・学科説明」を選んだ人が最も多く、「34.0%」だった。次いで「模擬授業」や「キャンパス見学ツアー」など、実際の大学生活をイメージできるプログラムが「有意義」と感じることが多いようだ。オープンキャンパスに参加する大学が志望度合いが高い以上、これらのプログラムが重要な決め手となるのは言うまでもない。特に、「学部・学科説明」や「模擬授業」については、大学が若手教員に担当させることも多いが、エース級の教員を動員することも考えた方が良いだろう。

また、文理別で比較すると、「研究室・実験室公開」に大きな差が生じており、理系は「17.8%」、文系は「1.4%」だった。理系の志願者にとって、研究室・実験室は大学生活に大きく関わるもの。オープンキャンパスにおいても重要性は高いようだ。また、学年別で比較すると、受験生は「入試説明会（過去問対策を含む）」が「14.4%」と高く、入試対策に重点を置いていることがわかった。


(C)2017 旺文社 教育情報センター

**質問 8:【参加したことで、志望する気持ちに変化はありましたか。】**
**質問 9:【志望度合いの変化について、当てはまるものを選択してください。（複数選択可）】**

回答数：369




オープンキャンパスに参加して志望に対する気持ちに変化があった人は「84.8%」と多く、このうち「志望する気持ちが強くなった大学がある」と答えた人は「80.7%」におよんだ。つまり、オープンキャンパス参加者の実に約 7 割が、参加後に志望度合いを高めている。大学にとって、オープンキャンパスは受験生の自校に対する志望度を高める大きなチャンスであることが分かる。

以上より、高校生・受験生は学年を問わず、すでに志望校をある程度絞り込んだうえで、第 1 志望校を中心にオープンキャンパスに参加していることがわかった。そして、大学生活をイメージできるプログラム（学部・学科説明や模擬授業、キャンパス見学ツアーなど）を見て確認し、保護者からは了承を得る機会となっている。

ここで重要なのは、多くの参加者は、オープンキャンパスに参加した結果、志望度合いを高めているという点だ。大学は、オープンキャンパスが受験生にとってどのような機能を果たしているのか、どのようなニーズがあるのかを再確認し、よりよいプログラムを展開していくことが必要だ。


(C)2017 旺文社 教育情報センター